

「生の会話」をしよう

湘南白百合学園中学校 3年 ^{うつのみや} 宇都宮 ^{かの} 奏乃

今年、私が一学期の間に、学校に行き、クラスの仲間と直接会って言葉を交わす、いわゆる「生の会話」をした回数は、10にも満たない。クラスメイトとの会話のほとんどは、パソコンやスマートフォンなどを使ったものであった。これは言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症対策で、休校になり、登校する機会が減ったこと、授業がオンライン上で行われたことによる。こうした状況で生活していく中で、私は「生の会話」が重要なものであると強く感じた。

初めてオンラインで朝礼を行い、新しい担任の先生、クラスメイトと画面上で会った日、私はなんともいえない違和感を覚えた。いつもならば、教室に集い、新たな生活に胸を躍らせていた。しかし、それをパソコンの画面上で行うと、冷たいという印象を受けたのである。

人と生で会話をしている時、私達はその場の雰囲気というものを五感全てで、無意識に感じているものだ。目の前にいることで、相手の体温や熱気、気力などを感じ、また、周囲の声や音が部屋に響く様子で、その場の雰囲気を感じ取ることができる。例えば、もしたくさんの生徒が話している中にいたら、人の熱気と和気あいあいとした雰囲気を感ずるだろう。しかし、画面越しではこうしたことを感じるができない。やはり、「生の会話」に優るものはないのだと思う。

そして、さらに次の出来事から、こうした「生の会話」は、人と人が関わり合う上で、重要な役回りを担っていたのだと気付かされた。

私は学校でホームルーム委員という役職についている。主にクラスの意見をまとめるのが仕事で、クラスの活動において司会進行役をしたり、全クラスのホームルーム委員で集まって、生徒の意見を取り入れ、学校をより良くする活動を行ったりしている。先日、新しいクラスでクラス目標を決めることになった。その際、私は他のホームルーム委員と共に、司会進行を行ったのだが、そこで、私は例年に比べ、進行を円滑に進めることが難しいと感じた。

どんなに司会進行役の私達が、クラスメイトに問いかけをしても、反応がほとんどないのである。私には、それが、クラスの雰囲気をまだ掴みきれておらず、戸惑って、どのような距離感で立ち回ればいいのかを皆、考えあぐねているように見えた。実際、私自身も、司会進行の際、他のホームルーム委員や皆と、どのような距離感で接すればいいのか、少し困惑してしまっていたと思う。

これは、「生の会話」の積み重ねが少ないことによる弊害といえよう。「生の会話」が少なく、教室での雰囲気を感ずる機会が少なかったことから、皆、クラスの雰囲気を知ることができなかったのだ。そしてそれがクラスメイトとの距離感をわからなくし、結果的にこのような出来事が起こったのであろう。

加えて、このことは、互いにコミュニケーションを取り、クラスメイトとの絆を深める障害になりかねないだろう。それは、より良い学生生活を送る上で避けたい事態だ。だから私は、学生には「生の会話」が大切であり、1日でも早く、以前のように「生の会話」をすべきだと思う。

ただ、今、新型コロナウイルスの猛威は続いており、以前のような生活に戻る日はいつなのか、全く分からない状況だ。もしかしたら、元通りの生活には戻れないこともあるのかもしれない。そんな今、私達学生は状況の好転を待つのではなく、「生の会話」の減少による弊害への対処として出来ることを、学生という立場から考えるべきだと私は思う。例えば、オンライン上でクラスメイトと、ディベートをする機会を設けてみる、というのはどうだろう。これにより、それぞれの意見からその人の価値観などを垣間見ることができ、「生の会話」の減少による弊害を少なくすることもできるかもしれない。

みんなも一緒に考えよう。それはきっと、私達の現在と未来の生活をより豊かにしてくれるはずだから。